

# 経済マンスリー [オーストラリア]

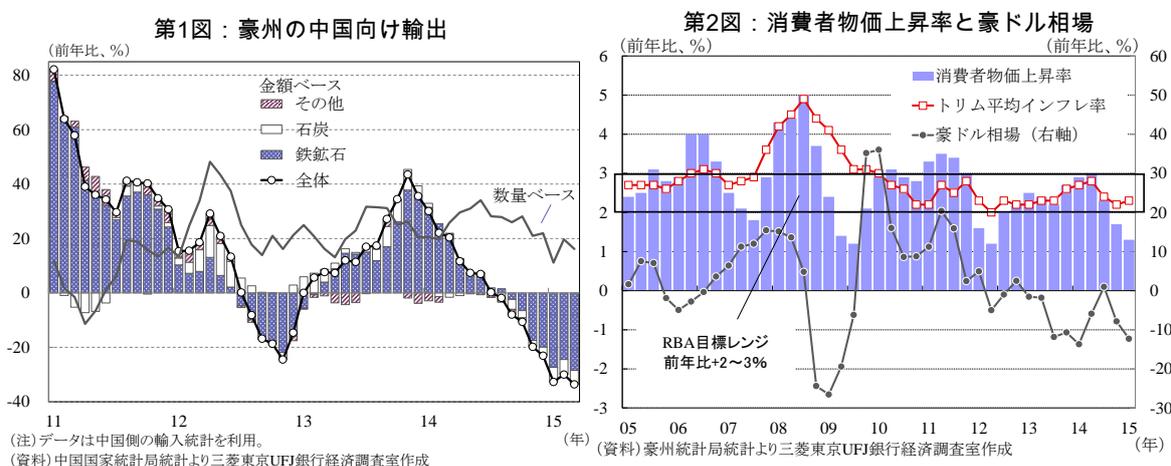
## 鉄鉱石価格が一段と下落するなか、中銀は追加金融緩和を示唆

豪州経済は資源価格の下落が続くなか、輸出を中心に減速感が強まっている。主力輸出品目である鉄鉱石価格の一段の下落に加え、最大の輸出先である中国の景気が1-3月期の実質GDP成長率で前年比+7.0%まで減速するなか、同国向け輸出金額が前年比35%落ち込んだことが大きい(第1図)。中国経済は住宅市場の調整や過剰設備の抑制を起点とした景気減速が続くとみられるため、この先も同国向け需要の持ち直しは期待しにくい。こうした状況下、大手資源会社は設備投資を抑制しており、鉱業部門を中心に民間投資は低調が続くと見込まれる。また、これまで堅調であった個人消費も、軟調な雇用情勢を受けて鈍化傾向が続く公算が大きい。

このように景気が弱いなかでも、豪州準備銀行(RBA)は4月2日の理事会において政策金利を据え置いた。追加金融緩和を見送った理由として、2月の利下げを含むこれまでの緩和効果を見極めたいことを挙げた。懸案の住宅市場についてスティーブンス総裁は4月20日の講演において、住宅価格はシドニーでは大幅に上昇しているが、その他の都市ではばらつきがみられ、過熱は全国規模ではないとの見方を示した。一段の金利低下が住宅市場の過熱拡大をもたらすリスクを指摘しつつも、需要の鈍化と全般的なインフレ率の低下を睨みながら追加金融緩和の可能性を示唆した。

実際、1-3月期の消費者物価指数(CPI)は前年比+1.3%と、前期(同+1.7%)をさらに下回り、2四半期連続でRBAの目標レンジ(同+2~3%)以下となった(第2図)。ガソリン価格の大幅な下落が交通運輸価格等を押下げたほか、賃金の伸び悩みなど低調な内需を反映し、非貿易財の伸びは小幅にとどまった。RBAが注目しているとされるトリム平均インフレ率(注)は同+2.3%とやや加速したが、この先も交易条件の悪化が続き、所得の伸びも鈍化が続くとみられることなどから全体的な物価上昇圧力は弱い。引き続き、追加利下げのタイミングを探る展開となりそうだ。

(注) 一時的な要因で大きく変動する品目を控除する目的で、季節調整済みの上昇率中央7割の品目で計算。



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo\_takeshima@mufg.jp  
大幸 雅代 masayo\_taiko@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。